

## ベルトおよびベルト曲げ金具

### BACKGROUND OF THE INVENTION

この発明は、腰から骨盤、そして下っ腹の恥骨上方にかけて締めると同時に、恥骨上方および鼠径部に沿って加圧し、腹式呼吸を促すベルトおよびベルト曲げ金具に関する。

従来、日本人は日本固有の和服の帯やフンドシ等を着用している。

従来の和服の帯やフンドシは人体における生理作用を考えるならば、それは捨て去るべきでないものである。古来日本では、「腹を据える」、「腹が太い」、「腹ができる」等の腹、すなわち、へそ下から恥骨上方部にかけての部分に関する言葉が多いのであるが、それは帯やフンドシ等で下っ腹を締めることにより、腹圧が上がり、腹式呼吸が自在になり、気力旺盛で沈着な人物を形成してきたのである。しかるに近代社会では洋服になり、ズボンでは大体へその上でベルトを締めるので、下っ腹を締めるということもなく、腹式呼吸を忘れ、生理的、精神的にかなりもろくなってきていると思われる。なぜなら、下っ腹が軟弱な状態では気力というものはでてこないものなのである。逆に、精神病者やノイローゼ等の人間の下っ腹は、筋張っているか、フニャフニャのはずである。

### SUMMARY OF THE INVENTION

本発明は以上のような従来の欠点に鑑み、本発明は下っ腹を効率よく締めることによって気力を充実させることができるとともに、1本のベルトで最適状態で容易に締めつけることができるベルトおよびベルト曲げ金具を提供することを目的とする。

また、本発明はデザインを損なわずに最適状態で締めつけることができるベルトおよびベルト曲げ金具を提供することを目的とする。

本発明の前記ならびにそのほかの目的と新規な特徴は次の説明を添付図面と照らし合わせて読むと、より完全に明らかになるであろう。

ただし、図面はもっぱら解説のためのものであって、本発明の技術的範囲を限定するものではない。

## BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS

FIG. 1 は本発明の第 1 の実施の形態のベルトの説明図、  
FIG. 2 は本発明の第 1 の実施の形態のベルトの説明図、  
FIG. 3 は本発明の第 1 の実施の形態のベルト状態の説明図、  
FIG. 4 は本発明の第 1 の実施の形態のバックル本体部の説明図、  
FIG. 5 は本発明の第 1 の実施の形態の鼠径部加圧具の説明図、  
FIG. 6 は本発明の第 1 の実施の形態のベルト曲げ金具の説明図、  
FIG. 7 はベルト曲げ金具のベルトの通り方の説明図、  
FIG. 8 は本発明の第 1 の実施の形態のベルト曲げ金具の金具の正面図、  
FIG. 9 は本発明の第 1 の実施の形態のベルト曲げ金具の金具の平面図、  
FIG. 10 は本発明の第 1 の実施の形態のベルト曲げ金具の金具の右側面図、  
FIG. 11 は FIG. 10 の 11-11 線に沿う断面図、  
FIG. 12 はベルト曲げ金具にベルトを通す説明図、  
FIG. 13 はベルト曲げ金具にベルトを挿着した状態説明図、  
FIG. 14 はベルト曲げ金具にベルトが通った状態の説明図、  
FIG. 15 は本発明の第 1 の実施の形態のベルトを挿着する状態の説明図、  
FIG. 16 は本発明の第 1 の実施の形態のベルトの挿着状態の説明図、  
FIG. 17 は本発明の第 1 の実施の形態の使用状態の説明図、  
FIG. 18 は本発明の第 1 の実施の形態の使用状態の説明図、  
FIG. 19 は本発明の第 2 の実施の形態のバックル本体の平面図、  
FIG. 20 は本発明の第 2 の実施の形態のバックル本体の正面図、  
FIG. 21 本発明の第 2 の実施の形態のバックル本体の底面図、  
FIG. 22 本発明の第 2 の実施の形態のバックル本体の右側面図、  
FIG. 23 本発明の第 2 の実施の形態のバックル本体部の説明図、  
FIG. 24 は FIG. 23 の 24-24 線に沿う断面図、

FIG. 25 は本発明の第2の実施の形態の止め金の説明図、  
FIG. 26 は本発明の第2の実施の形態のベルトの挿着状態の説明図、  
FIG. 27 は本発明の第3の実施の形態のベルト曲げ金具の説明図、  
FIG. 28 は本発明の第3の実施の形態のベルト曲げ金具の金具の正面図、  
FIG. 29 は本発明の第3の実施の形態のベルト曲げ金具の金具の平面図、  
FIG. 30 は本発明の第3の実施の形態のベルト曲げ金具の金具の右側面図、  
FIG. 31 は FIG. 29 の 31-31 線に沿う断面図。

## DETAILED DESCRIPTION OF THE PREFERRED EMBODIMENTS

以下、図面に示す実施の形態により、本発明を詳細に説明する。

FIG.1 ないし FIG.18 に示す本発明の第1の実施の形態において、1 は本発明のベルトで、このベルト1 は、FIG.1 ないし FIG.3 に示すようにベルト生地2 と、このベルト生地2 の一方の端部に取付けられたバックル本体部3 と、前記ベルト生地2 の前記バックル本体部3 に隣接する部位に固定的に取付けられた一方の鼠径部加圧具4 と、前記ベルト生地2 に取付けられたベルト曲げ金具5、6 と、前記ベルト生地2 の他方の端部寄り部位に固定的に取付けられた他方の鼠径部加圧具7 と、前記ベルト生地2 の他方の端部部位に固定的に取付けられた止め金8 とで構成されている。

前記ベルト生地2 は、従来と同様の布製等のものがよく、その幅は、好ましくは5～6 cmが適当である。幅が広すぎたり、弾力性があると下っ腹の締め具合がぼけるのである。

前記バックル本体部3 は、恥骨上方に圧力を加える部材として使用され、FIG.4 に示すように、ナット9、座金10 を介して前記ベルト生地2 の一方の端部の裏面にベルト長さ調整金具11 を位置させ、前記ベルト生地2 の表面側から、ゴム板12、座金13 を介して、ボルト14 を挿入し、前記ベルト長さ調整金具11 のねじ部に結合し、一体的に固定する。

なお、ベルトの裏面とは本ベルトを装着したとき人体に接する側をいい、ベルトの表面とはその反対側をいう。

前記一方および他方の鼠径部加圧具4および7は、FIG.5 に示すように、ナット15および座金16をゴム板17に嵌めこみ、前記ベルト生地2の表面部位から取付けクリップ18を、前記ナット15、座金16、ゴム板17およびベルト生地2と一体となるように取付ける。

前記ベルト曲げ金具5および6は、FIG.6 ないし FIG.11 に示すように、四角形状の枠金具19と、この枠金具19に前記ベルト生地2を挟み込み、曲げることができるE形状の金具20とから構成されている。前記金具20は、根元部20aと、この根元部20aの両端部より垂直方向に、ほぼ水平に突出するように設けられた、先端部がクランク状に形成された挟み棒20b、20cと、前記根元部20aのほぼ中央部より垂直方向に、突出するように設けられた、下方向に折り曲げ、先端部は逆クランク形状に形成された中央挟み棒20dとで構成されている。

さらに、FIG.7 に示すように、B-BおよびC-Cでベルト生地2の通り方を表したものである。金具20の根元部20aの近く、B-B方向に通る部分は波状に折れ曲がり、金具20の先端部21b、21d、21c付近のC-C方向は略水平に通る。このB-B方向とC-C方向のたわみの差がベルト生地2の曲がりを作るのである。

前記金具20aの先端部21bおよび21cと、逆クランク状の先端部21dの3つのクランク状の先端部位で枠金具19の長手方向の一边を挟み込めるようにすることができる。

上記構成のベルト1は、まずFIG.12 ないし FIG.14 に示すように、ベルト生地2にたわみを持たせ、2つの山と1つの谷を形成し、その2つの山の部分に金具20の挟み棒20bおよび20cを、谷の部分に中央挟み棒20dを通す。次にFIG.13 に示すように、そのベルト生地2を挟み込んだ金具20を枠金具19にくぐらせ、その後金具20の挟み棒20の3つの先端部21b、21c、21dで枠金具の長手方向の一边を挟んだ後、枠金具19の両外側のベルト生地2を引っ張ると、FIG.14 の状態になり、ベルト生地2の曲げが完成する。

次に、FIG.15 ないし FIG.18 に示すように、ベルト生地2の他方の端部に止め金8をミシン等で縫い止め、一方の端部に、ベルト長さ調整金具11でベルト使

用者の腰から鼠径部、恥骨上方までの長さを決め、固定する。その後、腰から鼠径部そして恥骨上方へとベルトを装着した場合、恥骨上方だけでなく鼠径部全体に適度な圧力を加えると、下っ腹全体をかかえ上げるような具合になり、腹式呼吸がより楽にできるようになることに気付いたことから、バックル本体部3の他に鼠径部にも圧力が加えられるように、鼠径部加圧具4および7を左右の鼠径部の適当な部分に、鼠径部加圧具2および7の取付けクリップ18を用いてベルトの裏面に取付ける。

しかして、一本のベルトを、腰から鼠径部、そして恥骨上部へと回して締めると、人体の表面は曲面の連続であることと、腰と恥骨上方との高低差によりたわみが生じるからそのたわみを解消するためのベルト曲げ金具5および6を、腰の両側のやや後方に取付ける。

なお、バックル本体部1のゴム板13と鼠径部加圧具2および7のゴム板17の厚さは1 cm以内、たて幅はベルトの幅と同じくらいが適当と考える。

また、本実施の形態では、ゴム板を使用しているが、これに限らず、ある程度硬さのある弾力性材や衝撃吸収材を用いてもよい。

次に、FIG.19ないしFIG.31に示す本発明の異なる実施の形態につき説明する。なお、これらの本発明の異なる実施の形態の説明に当たって、前記本発明の第1の実施の形態と同一構成部分には同一符号を付して重複する説明を省略する。

FIG.19ないしFIG.26に示す本発明の第2の実施の形態において、前記本発明の第1の実施の形態と主に異なる点は、L字状のフック22を有する金属製のバックル本体23、このバックル本体23と一体的に取付けられるビス挿入孔24を有するゴム板12Aとからなるバックル本体部3Aと、このバックル本体部3Aの前記フックに引っ掛けて止めることができる係止孔25およびビスやナット等を挿入する挿入孔30を有する止め金本体26、この止め金本体26の両端部にベルト生地2を引っ掛けて長さを調整することができるように係止された係止部27とからなる止め金6Aを用いた点で、前記バックル本体23は、ビスやナット等を挿入する挿入孔28と、前記バックル本体23の端部に形成されたベルト生地挿入孔29とを有する。

このように構成したベルト1Aにしても、本発明の第1の実施の形態と同様の

作用効果を得ることができるとともに、FIG.26 に示すように、しっかり締めることができる。

FIG.27 ないし FIG.31 に示す本発明の第3の実施の形態において、前記本発明の第1の実施の形態と主に異なる点は、根元部20aのほぼ中央部より垂直方向に、突出するように設けられた中央挟み棒20eを有するE形状の金具20Aを用いたベルト曲げ金具5A、6Aを使用した点で、このように構成されたベルト曲げ金具5A、6Aを用いたベルト1Bにしても本発明の第1の実施の形態と同様の作用効果を得ることができる。

なお、前記本発明の異なる実施の形態では主に第1の実施の形態を基にして説明したが、本発明はこれに限らず、各実施の形態に使用された構成を組み合わせ使用しても同様な作用効果が得られる。

以上の説明から明らかなように、本発明にあっては次に列挙する効果が得られる。

本発明の効果は、腹式呼吸の誘発、丹田に気を込めるということ、そして腰の固定である。

(1) ベルト生地と、このベルト生地の一方向の端部取付けられた止め金と、この止め金と係合することができるように前記ベルト生地の方の端部に取付けられた、前記ベルト生地の長さを調節、固定、かつ、恥骨上方を圧迫することができるバックル本体と、前記ベルト生地にスライド可能、かつ着脱可能に取付けられた、前記ベルト生地を曲げることができるベルト曲げ金具とで構成しているので、一本のベルトを腰から鼠径部、そして恥骨上方へと回して締め、更に恥骨上方と鼠径部に効率よく圧力を加えることができ、不随意的な腹式呼吸を持続させることができる。すなわち、ベルトを締めた状態で吸息の状態になると、自然な吸息時での腹腔内圧の上昇、腹部が外側に広がる状態でベルトは鼠径部に沿って締められているので、更なる腹腔内の力が下り腹を締めると同時に、腹部を押えつけるのではなく、より腹部が広がる方向へ働き、横隔膜が下げられる、すなわち呼吸量が寄り多くなるということである。

(2) 前記(1)によって、ベルトを締めることによって、腹圧がかかった状態になり腹腔内部の筋肉および諸臓器により緊張をもたらす、活性化させることが

できる。

（３）前記（１）によって、気持ちがゆったりと落ち着くことができ、ゆったりとしていながら充実感を失わないのである。色々なストレスにさらされた場合でも、腹部で気を受け止めることができるので。イライラやカリカリする度合いが非常に少なくなる。さらに深く、長く、そして静かな腹式呼吸は自我意識が暴れまわることを容易に静め、自然との一体感を効率よくもたらすことができる。

（４）前記（１）によって、構造が簡単であるので、容易に実施することができるとともに、安価に製造することができる。